

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学
経営協議会（令和3年度第4回）議事要旨

1. 日時 令和3年11月26日（金）13:00～15:13
2. 場所 事務局3階会議室、東京事務所、オンライン会議
3. 出席者(参集) 塩崎議長
小笠原、太田、渡邊、野口、島崎の各学内委員
後藤、小山、田中、板東、藤沢の各学外委員
(Webex) 土井学内委員
手代木、ベントンの各学外委員
欠席者 宮原学外委員
出席監事(Webex) 西村、春本の各監事
陪席者(参集) 松山、高橋の各部長
堀内、筒井、森、川村、竹河、田中、吉川の各課長
(Webex) 山口課長
4. 配付資料
資料1-1 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学経営協議会（令和3年度第2回）議事要旨（案）
資料1-2 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学経営協議会（令和3年度第3回：電子会議）議事要旨（案）
資料2 学長選考会議委員の選出について
資料3 令和3年度補正予算の編成について
資料4 令和3年度目的積立金の配分について（案）
資料5 本学の主な動き（令和3年6月～令和3年11月）
資料6 令和2事業年度財務諸表の承認について（通知）
資料7 令和4年度概算要求における運営費交付金等の状況について
資料8 令和3年度外部資金の受入れについて
資料9 経営協議会学外委員からの意見を法人運営の改善に活用した主な取組事例
5. 議事
(前回議事要旨の確認)
資料1-1～2の令和3年度第2回及び第3回の議事要旨（案）について、原案のとおり承認した。

(審議事項)
(1) 学長選考会議委員の選出について
議長から、資料2に基づき、学長選考会議規程第3条第1項第1号の学長選考会議委員の選出について説明が行われ、審議の結果、藤沢委員が選出された。

(2) 令和3年度補正予算の編成について
渡邊理事から、資料3に基づき、令和3年度補正予算の編成について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(主な意見等は、以下のとおり)

- ・教員の採用計画について、大学としての経営的な理念や学長ビジョンに基づいて計画されているのか。
- これまで活用できていなかった教員枠を、「学長ビジョン・イニシアティブ」という大学の戦略に沿った上で使用し、本学の教員の多様性を高めるという観点から配置するというを本年度よりスタートさせている。
- ・柔軟に使用できる経費を、今後も継続的に捻出し、地域との共創に活用してほしい。
- これまでの大学の重点戦略経費あるいは学長裁量経費を活用していきたい。

(3) 令和3年度目的積立金の配分について

渡邊理事から、資料4に基づき、令和3年度目的積立金の配分について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(報告事項)

(1) 本学の主な動きについて(令和3年6月～令和3年11月)

議長から、資料5に基づき、令和3年6月から令和3年11月までの本学の主な動きについて、報告があった。

(2) 令和2事業年度財務諸表の承認について

渡邊理事から、資料6に基づき、文部科学大臣からの令和2事業年度財務諸表の承認について、報告があった。

(3) 令和4年度概算要求の状況について

渡邊理事から、資料7に基づき、令和4年度概算要求の状況について、報告があった。

(主な意見等は、以下のとおり)

- ・大学間競争という名目で、評価指標の達成状況等に基づいて運営費交付金が上下する仕組みとなっているが、大学の自治や基礎力の強化という観点からは、従前の自由に使用できる運営費交付金に戻すべきだという意見が国立大学協会から意見が出ていると思うが、奈良先端大ではどう考えているか。
- 大学の個性よりも特定の同じ数値目標で全ての大学を評価し、その評価結果に基づいて運営費交付金を配分するという方向に進んできており、これについては、大学の個性がなくなると国立大学協会も強く反対している。本学としては、各大学の個性を認めてもらい、それぞれが魅力を発揮していけるような運営費交付金の配分が望ましいと考えている。
- また、地域との連携の中で、各大学が個性を発揮していくということが、本来の国立大学の使命だと考えている。
- ・基幹設備(ライフライン)の老朽対策以外に、例えばけいはんな学研都市などの地域と連携する場を整備するといった計画はあるか。
- イノベーション・コモンズ等、共創の場を作っていく方向性が国より示されれば、本学もキャンパスマスタープランに盛り込み、積極的に取り組みたい。
- ・カーボンニュートラルに向けた具体的な取組をどの程度行っているのか。
- 現状は、LEDライトへの切り替え及び太陽光パネルの設置を行い、省エネルギーに努めているが、カーボンニュートラルについて国から施策として打ち出された場合は、積極的に取り組みたいと考えている。

(4) 令和3年度外部資金の受入れについて

太田理事から、資料8に基づき、令和3年度外部資金の受入れについて、報告があった。

(主な意見等は、以下のとおり)

- ・1研究科体制にしたことにより、外部資金の受入れに何か変化があったのか。
- 領域間の融合領域で行っている研究は進んできている。実際に外部資金がどのくらい増加しているかは不明であるが、次回の会議において領域別などに整理した資料をお示しさせていただきたい。

(その他)

(1) 経営協議会外部委員からの意見を法人運営の改善に活用した取組事例について

議長から、資料9に基づき、経営協議会外部委員からの意見を法人運営の改善に活用した取組事例について紹介があった。

(主な意見等は、以下のとおり)

- ・自己収入の拡充のために自治体と連携して、研究成果をふるさと納税の返礼品として活用してはどうか。
- ・女性研究者が、子どもができてもしっかり研究が続けられることをアピールできるようなブランディング及び環境整備ができないか。
- 現在、学内保育所を設置する方向で検討している。
- ・大学の知名度向上のために、多様な大学教員を積極的に採用することも検討してはどうか。
- 現在、男女共同参画室内に、本学の多様性の実現に向けてのプロジェクトチームの設置を検討している。また、当該プロジェクトチームにおいて、本学の多様性についての方針を明示する宣言を策定する予定である。
- ・コロナ禍における優秀な留学生の受入れ状況はどうか。
- 従前は、国内限定だった学生募集説明会を、オンラインで海外の学生も参加可能となり、今後も継続したいと考えている。また、オンラインでの表敬訪問を積極的に行っており、海外の協定校からの留学生の継続的な受入れを行っていききたい。

(2) 学長ビジョン2030について

議長から、机上配布資料に基づき、学長ビジョン2030について説明があった。

(主な意見等は、以下のとおり)

- ・若手研究者の人材育成の観点から、継続的に次の世代を育成するためのポイントはどのように考えているか。
- テニユアトラック制は、若手の非常に優秀な研究者が、いち早く独立し、活躍できる制度として有効であると考えられる。
- ・研究活動の企画・マネジメント等の観点から、URAの活用を積極的に行っているが、人材育成あるいは組織の戦略的構築ということで、本学においてURAの位置付けは明確になっているのか。
- 基本的には任期付きで雇用しているが、採用後5年目に転換審査を行い、その結果、一定の基準以上になると無期雇用になる制度がある。

・研究成果を教育に還元していく立場の「UEA」を配置しているのか。
→ 既に制度があり、現在、教育支援、キャリア支援、国際支援及び留学生支援等のUEAを7名配置している。

(3) デジタルグリーンイノベーションセンターについて

出村センター長から、机上配布資料に基づき、デジタルグリーンイノベーションセンターについて説明があった。

(主な意見等は、以下のとおり)

・奈良先端大バイオエコノミーコンソーシアムでは、どのような業種の企業に声かけをしているのか。

→ 基本的には、グリーンイノベーションあるいはバイオエコノミーというキーワードにかかる企業で、業種は限定せずに広く対象としたいと考えている。

以 上